

2020年度事業計画

1. 会議計画

主要な会議である総会、諮問会、理事会、運営審議会および賞選考関連会議は以下のとおりとする。

1.1 総会

第 48 回定時社員総会を 2020 年 5 月 29 日(金)に大阪で開催する。主要な議案は、2019 年度事業報告と収支決算報告、2020 年度事業計画と事業予算についてである。新型コロナウイルス流行拡大に伴い、大阪での開催が難しくなった場合は、Web による開催に切り替える。

1.2 諮問会

第 9 回諮問会は新型コロナウイルス流行拡大に伴い、上記総会前に、学会ホームページに 2019 年度事業報告・決算報告、および 2020 年度事業計画・収支予算書を掲載の上、学会活動に関し幅広く諮問員に意見を伺う方法で実施する。

1.3 理事会および運営審議会

理事会を 3 回(第 117,118,119 回)、運営審議会を 2 回(第 27,28 回)開催し、総会および諮問会への提出議案の作成、各事業の充実、財政基盤の強化等について審議する。

1.4 賞選考委員会

第 25 回賞選考委員会を第 117 回理事会開催前に開催する。賞選考委員会において第 44 回レーザー学会業績賞(論文賞、進歩賞)及び奨励賞を審議する。学術講演会第 40 回年次大会の論文発表賞については年次大会実行委員会が選考を行い、結果を賞選考委員会に報告する。賞選考委員会は以上の選考結果を審議し第 117 回理事会及び第 9 回諮問会に報告する。また、第 13 回産業賞選考委員会を開催し、優秀賞、奨励賞及び貢献賞につき審議する。

第 41 回年次大会の論文発表賞の受賞通知を 2 月末に実施する。第 13 回産業賞の授賞者を 4 月上旬に学会ホームページにて告知する。

なお、フェロー制度、上級会員制度において、昨年度応募のあった候補選考を第 117 回理事会開催前に第 6 回称号審査委員会にて行う。

2. 事業、行事計画

実施する事業、行事計画は以下のとおりとする。

2.1 編集委員会および会誌出版

会誌「レーザー研究」を年 12 冊(第 48 巻 4～12 号および第 49 巻 1～3 号)、毎月中旬に発行する。このため、編集委員会を 12 回(第 480～491 回)開催し、企画編集、進捗フォロー、次号ゲラ刷りのチェック等を実施する。開催日は毎月中旬とし、原則として東京と大阪で交互に開催する。

CLEO/QELS 2020 等各種国際会議に参加する会員からの情報収集により、レーザー技術および関連技術に関する海外調査を実施し、その結果を会誌「レーザー研究」に掲載する。

2.2 研究委員会および研究会

研究委員会を 4 回(第 246～249 回)、研究会を 11 回(第 543～553 回)開催する。研究会については単独開催研究会を 8 回、他学会との共催研究会を 3 回開催する。単独開催の研究会では資料「研究会報告」を作成し、研究会当日に参加者に販売するとともに、年間購入予約者に頒布する。

2.3 技術専門委員会

技術専門委員会を 18 件(継続 16 件、新規 2 件)を実施する。

学会 HP 上に各委員会の設立・継続にあたっての目的を明らかにし、賛同者を募り学会内コミュニティ形成のための基盤作りに努める。

また、2021 年 3 月に活動の節目を迎えるテーマが 12 テーマあるため、企業から見て魅力のある新たな応用分野に係るテーマ、社会貢献度の高いテーマ等を発掘するとともに、活動を終える技術専門委員会には、研究会への展開についても検討するよう働きかける。

技術専門委員会の新設・技術専門委員会活動の推進・シンポジウム企画によるコミュニティ拡大・研究会への展開については、学会の今後の発展にも関わる重要な課題として捉えていく。

2.4 学術講演会年次大会

第41回大会は、併設展示会”Laser Solutions 2021”と併せ、2021年1月18日(月)～20日(水)の平日に、北九州国際会議場(福岡県北九州市小倉北区)で開催する。

第38回大会以降、講演数・参加者数が大きく伸びたが、①他の学協会との連携強化、②可能な限り平日に開催、③支援金・助成金の獲得強化、④シンポジウムの企画強化、⑤学生が参加しやすいポスター講演の実施、⑥講演部門名・分野キーワードの見直しと新設したX分野(複合・新規領域)の充実化、⑦地方支部における会員勧誘活動の強化、などに関する取組みについては今後も継続強化していく。特に今年度は異分野の学会との連携(ジョイントシンポジウム開催)も検討する。

2.5 国際交流

Optics&Photonics International Congress(OPIC) 2020(2020年4月20日(月)～24日(金))は、新型コロナウイルス流行拡大により、デジタル開催に変更となった。弊学会が主催する専門会議はそれぞれ下記の通り異なる対応をとることになる。

・ALPS:国内の大学などで会議を開催し、Zoomによるストリーミング配信を予定

・HEDS:発表者によりアップロードされたプレゼンテーションビデオをYouTubeとYoukeで限定公開として配信

・OWPT:参加登録した発表について、予稿集の発行を持って会議の成立とみなす

また、レーザー研究の国際的振興、特にアジア・太平洋地区の関連学協会との研究交流を推進するため、日本・中国・韓国で順次隔年で開催を続けてきたAsia-Pacific Laser Symposium (APLS)の第12回大会は、弊学会主催で函館国際ホテル(函館市)にて2020年10月12日(月)～15日(木)に開催する予定を、新型コロナウイルス流行拡大により、2021年10月12日(火)～15日(金)に延期とし、2020年度はその準備にあてる。

2.6 レーザーセミナー

レーザー技術の基盤の拡大と普及を目指して下記セミナーを開催する。

(1) レーザー特別セミナー、レーザー安全講習会

本技術セミナー(2020年4月22日～24日)は、新型コロナウイルス流行拡大により、2020年度の開催は中止とする。

一方、昨今のレーザーの実用化や高出力化の進展に伴い、レーザー安全教育の必要性が高まってきていることから、レーザー安全講習会を、今後継続的に学会主催で“光とレーザーの科学技術フェア”において同時開催していく(2020年11月11日～13日)。

(2) レーザー夏の学校(レーザー学会共主催、日本光学会協賛)

光・レーザー分野の研究に携わる学生及び若手研究者の交流、研究意識向上を目的として、当学会として教育及び学術交流の観点から本行事に支援を行う。支部活動の一環としても支援を強化する。

2.7 展示会

下記の展示会を開催する。

(1) レーザーEXPO 2020

レーザー機器の展示会“レーザーEXPO2020”は新型コロナウイルス流行拡大に伴い中止とする。

(2) Laser Solutions 2021

第41回年次大会において、レーザー機器、書籍等の展示会“Laser Solutions 2021”を併催。

2.8 表彰、認定、賞推薦・助成推薦

(1) 表彰

第44回レーザー学会賞(業績賞・論文賞、業績賞・進歩賞、奨励賞)、学術講演会第40回年次大会論文発表賞および学会活動に貢献のあった者を表彰する。また、レーザー関連技術及び事業において顕著な功績のあった者をレーザー学会産業賞として表彰する。新型コロナウイルス流行拡大に伴い、表彰式は中止とするが、授賞に関してはそれぞれ学会誌や学会ホームページ等に掲載して広くアピールする。

(2) 上級会員/フェロー認定

2019年度に申請のあった候補者は称号審査委員会で審査され、第117回理事会に諮られる。承認された会員各位に関しては、他薦の場合本人同意を得たうえで、認定書を本人に送付する。

(3) 賞推薦、助成推薦

レーザー学会会員に各種学術賞，研究助成案件を広く案内し，研究業績から優れた成果を上げたと認められる方，および学会に対し貢献のあった方を，学会として積極的に推薦していく。

2.9 支部活動の展開

支部活動の活性化による地域の状況に応じた会勢拡張と位置付けて，国内 6 支部にて，地域の会員へのレーザー関連学術情報提供サービス推進のため，単独および他学会支部との共催によるセミナー，研究会，講演会開催，情報交換，支部表彰等の活動を推進する。特に地方会員強化のため，昨年度から始めた年次大会開催地方の会員募集年会費無料キャンペーンは今年度も継続実施とする。

2.10 関連学協会等との連携および協力

国内他学会，研究団体および関連業界との共催，協賛，後援による研究会，講演会等の開催を通じて，関係団体との連携，協力を推進する。ジョイントシンポジウムの取り組みは，今後異分野の学協会にも広げ積極的に進める。

なお，新型コロナウイルス流行拡大等の不測の事態により，上記活動の実施が難しくなった場合は，検討委員会等を立上げ，柔軟な対応を図り，参加者や収益の拡大化を目指す。